【聴覚相談センター】第4回　鹿児島きこえの交流会終了

去る12月5日（金），本校で講演会を行いました。校内外の保護者及び支援者 34 人と本校職員が参加しました。

NPO法人デフ Network かごしま理事長の澤田利江さんには，「ろう・難聴児の 10 年後」をテーマにお話しいただきました。

また，筑波技術大学産業技術学部長の加藤伸子先生にもお話をいただきました。筑波技術大学は，茨城県つくば市にある，日本で最初に視覚障害者または聴覚障害者であることを入学条件にした国立大学法人です。本校中学部卒業生も，「産業技術学部」，「共生社会創成学部」へそれぞれ進学しています。

お二人の話で共通していたキーワードが**「情報量×経験」**でした。情報保障が整っているだけ，失敗も含めた経験が豊富なだけではなく，どちらも兼ね備えてはじめて思考力や心理的安定感，アイデンティティが確立できるとのお話が印象的で，短いながらも充実した時間でした。

また，参加者や本校からの加藤先生への質問には以下のように答えていただきました。丁寧に御対応くださり，ありがとうございました。

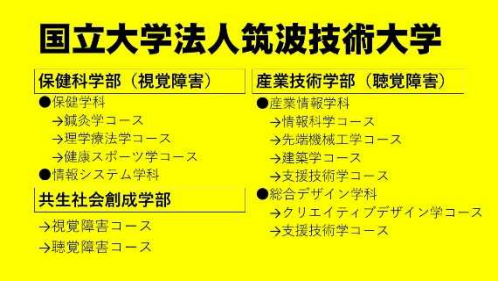
Q1　筑波技術大学に入学してほしい人材，聾学校に対して求める人材像について教えてください。

A1　本学のアドミッションポリシーには，意欲に関する表現が多くあります。夢や意欲をもって取り組むことは，未来を切り拓く何よりの原動力になるかと思います。

元来，学ぶこと・考えること・想像し創造することは，人が本来的にもっている力かと思います。聾学校は，**学ぶ楽しさを感じながら，真っ直ぐな夢や意欲をもって伸びていく力**を育てていただける場所かと感じています。

筑波技大は入学してから卒業するまでに，きこえない・きこえにくい学生が飛躍的に伸びる環境がある大学です。高校までに培っていただいた伸びる芽が，花開く場所になれば何よりかと思います。

Q2　筑波技術大学ではどのようなことを専門的に学んでいますか。また，就職先にはどのような企業等がありますか。



A2 筑波技術大学の産業技術学部及び共生社会創成学部では，きこえない・きこえにくい学生が，**情報・建築・機械・デザイン・障害社会学などの文系から理系までの幅広い専門領域**と，**情報保障工学を含む支援技術など共生社会を切り拓く実践力**を学ぶことができます。

就職では，それぞれの専門に応じて，**IT 系企業・建設建築系企業・電機メーカー等々の日本を代表する企業の大卒総合職（研究，開発，事務）や，公務員，ろう学校の教員**，など幅広い職についています。 詳しくは，学部案内や，YouTube の動画等を参照願います。

・筑波技術大学 HP→https://www.tsukuba-tech.ac.jp/

・YouTube チャンネル@筑波技術大学大学説明会

→https://www.youtube.com/channel/UC_1ZGzlxtZvxcFc9VBduADg

Q3 企業は筑波技術大学の学生（聴覚障害者）にどのような人材像を求めているのですか。

A3 企業が求めている人材像としては，**自身の障害特性を理解し，IT 機器を駆使し，自ら学び続ける力をもち，周囲に建設的に働きかけていく人材**が求められています。筑波技術大学では，そのような力を培うために，様々な体験や挑戦ができる環境を用意しています。

Q４「情報量×経験」というキーワードが印象的でした。もう少し詳しく教えてください。

A4 情報量が多いほど，状況を多角的に分析ができると期待されます。これは，論理的思考力の土台になると考えられます。ただし，情報量といっても文字を読むだけ，動画を見るだけなど，受動的な活動で得た情報では学びが深まらないことが分かってきています。

考えて，実際にやってみて，議論して，という体験を重ねることで，体験と知識（情報）は結び付き，学習は単なる暗記ではなく，生きた知識となることが期待できます。さらに，**情報にかえ，情報を次の体験で試すことで，成長が加速する**と考えられます。

情報を獲得し，体験を共有する手段は，時と場面に応じて，最も適した言語や手段で，遅延なく，十分に獲得できる環境が望ましいと考えられます。

実際に，筑波技術大学の学生・卒業生は，場面に応じて様々な IT 機器とコミュニケーション手段を使い分けています。卒業後の長い人生の中で多様な手段を持っていることは，活躍の場を広げると共に，心理的安定性にもつながっているようです。